

H28 年度 活動報告

1) 研修会企画部会

- ① 2016/11/24に第1回目の研修会を開催しました。(資料3、4、5)。最初に、東京都立小児総合医療センター小児歯科医長で、多摩小児在宅歯科医療連携ネット 代表である小方 清和から「多摩地区の重症心身障害児に対する歯科診療の今とこれから—アンケート調査からわかったこと」の演題名で「たましょうしネット」の趣旨とアンケート結果の説明が行われ、次に意見交換会を兼ねたコーヒードリンク後、東京都立小児総合医療センター総合診療科 神経内科 医長の富田 直先生による講演「多摩地区における小児在宅医療の現状」が行われました。多摩地区の歯科医師会に所属する歯科医師を中心に 100 名の出席者がありました。



- ② 2017/3/2 にスピノフミーティングを開催しました。医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろに勤務し、北海道大学大学院歯学研究科小児・障害者歯科学教室に在籍する高井理人先生による講演「小児在宅歯科医療の実態について～札幌での取り組みから～」が行われました。

- ③ 2017/3/23に第2回セミナーを開催しました(資料9、10)。新生児口腔ケア研究会代表である武田康男先生による講演「こどもと家族と歩む いのちとともに歩む」が行われ、多摩地区の歯科医師会に所属する歯科医師を中心に 120 名の出席者がありました。



2)リサーチ部会

- ① 多摩地区 20 歯科医師会を統括する多摩連合の会長を通じて各地域歯科医師会にアンケートを依頼し、地域での小児在宅患者に対する歯科診療(往診及び通院)の現状と、小児在宅患者の受け入れが可能な協力歯科医院を把握する目的でアンケート調査を行いました。1806 名にアンケートを送付し、32%の回収率でした。全体の 31%が、重症児の訪問診療は行ったことがないが興味があるとの回答でした。在宅での重症児の診療が5%であるのに対し、通院での診療は 34%でした。在宅小児や障害児に関する研修会の参加希望は 23%、参加を希望しないは 30%、わからないが 44%でした。重症児の診療は経験がなく、抵抗を持っていることがうかがえました(資料 1)。

この結果は H29 年 5 月 25 日から開催される第 55 回日本小児歯科学会大会で報告致しました。

- ② 小児在宅患者に多く関わっている東京都全域の訪問看護ステーションにアンケートを依頼し、歯科の需要を含めた歯科受診のニーズを調査しました。東京訪問看護ステーション協議会のホームページに掲載されているリストを基本に、掲載されていない事業所をできる限り付け足し、リストの作成を行いました。H28 年 10 月 4 日時点で 548 事業所を抽出し、各事業所に H29 年 1 月最終週必着となるように郵送しました。H29 年 3 月 16 日時点で、182 通の返信があり、33.2%の回収率となっています(資料2)。現在、集計作業中であり、解析結果をまとめ、H29 年 10 月に開催される第 34 回障害者歯科学会で報告する予定です。

3)マップ・ホームページ部会

今後の小児在宅歯科医療を実施する上での情報の窓口となるよう H29 年 3 月にホームページを開設しました。また、在宅歯科医療協力歯科医院マップも同時に作成し、医師、訪問看護ステーション、小児在宅患者のご家族が活用していただくことを期待しています。当ホームページは立ち上げたばかりの未完成なものであり、今後医療従事者、在宅小児患者のご家族のにとって、活用しやすくなるよう改変を続けていく予定です。

4)アセスメント部会

歯科診療に訪問する前に必要な情報を把握するため、「問診表」「口腔内アセスメントシート」を作成しました。受診希望者は問診票を事前に記入し受診できるように、ホームページから入手できるようにしました。口腔アセスメントシートは受診後、歯科医療従事者が記載し、重症児特有の所見を見逃さないようにするために活用します。今後は診療マニュアルを作成していく予定です。

●今後の展望について

たましよしネットの活動を推進するにあたり、4 つの事業(研修会企画事業、リサーチ事業、マップ・ホームページ作成事業、アセスメント事業)は必須でした。それぞれの活動には費用負担があり、今回の研究費助成※は当ネットの活動推進になくてはならないものでした。地域の歯科医師や歯科衛生士、その他小児在宅歯科医療にかかわる人々にとって、在宅小児患者への歯科医療が十分でないことは周知の事実でしたが、それぞれが個別に訴えても実現はしません。それぞれの思いが 1 つになって初めて 1 つの方向性に向かって進むことができることを改めて知ることができました。この H28 年度の 1 年間の活動は極めて有意義であり、充実したものでしたが、まだ始まりでしかなく、この活動を継続していくことに意味があります。重症児の訪問歯科診療を行う際、スピンオフセミナーで講演いただいた札幌の高井歯科医師が務める病院のように多職種と協働して診察できるのがやはり理想ですが、そのような環境で訪問歯科診療が行える医院はほとんどありません。我々の今後の方向性としては、多摩地区全体が「たましよしネット」というひとつの病院となり、多職種で連携

して機能することです。今後も多摩地域の方々と共に小児在宅歯科医療を推進していくことで、この活動が全国に広がっていくよう取り組むことができると信じています。

※H28年度の活動は、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成を受け行いました。